

第2回南砺市立学校のあり方検討委員会

令和2年10月30日(金)午後7時00分

南砺市役所福光庁舎 別館3階大ホール

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

- 令和2年度第1回南砺市総合教育会議での市長・教育委員の発言要旨
について 資料1

3. 協議事項（意見交換）

- 将来の学校のあり方について 資料2

4. 次回協議会の日程

- (1) 第3回検討委員会 令和2年 月

5. 閉会 副委員長あいさつ

令和2年度 南砺市立学校のあり方検討委員会 委員・事務局名簿

1. 委員 19人

No.	役職	氏名	所属	備考
1	委員	松山 友之	学識経験者（富山国際大学子ども育成学部准教授）	委員長
2	委員	齋藤 史朗	学識経験者（元富山県西部教育事務所長）	
3	委員	税光 詩子	学識経験者（元南砺市教育委員）	
4	委員	野原 浩昭	小学校長会（井波小学校長）	
5	委員	今井 幸代	中学校長会（井口中学校長）	
6	委員	谷戸 仁美	保育園長会（城端さくら保育園長）	
7	委員	越山 穂高	井波地域PTA代表	
8	委員	山崎 宏充	井口地域PTA代表	
9	委員	長谷 英毅	利賀地域PTA代表	
10	委員	小原 治五右衛門	城端地域PTA代表	
11	委員	柴田 昌尚	福野地域PTA代表	
12	委員	湯浅 俊和	福光地域PTA代表	
13	委員	酒井 浩徳	平地地域PTA代表	
14	委員	東田 晃	上平地域PTA代表	
15	委員	石黒 公一	南砺市PTA連絡協議会代表	副委員長
16	委員	柳田 由紀	公募委員	
17	委員	大河原 晴子	公募委員	
18	委員	森田 清仁	公募委員	
19	委員	須河 紗也子	公募委員	

2. 事務局

所属等	氏名	備考
教育長	松本 謙一	
教育部長	村上 紀道	
教育総務課長	氏家 智伸	
教育総務課 副参事	高田 公美	
教育総務課 主幹	川口 雅也	
教育総務課 副主幹（学務係長）	野村 大輔	

令和2年度第1回南砺市総合教育会議での市長・教育委員の発言要旨

1 日 時 令和2年10月22日（木）午前10時00分～午前11時15分

2 場 所 南砺市福光会館 サークルルーム

3 会議の概要（主な意見等）

協議事項

（1）南砺市立学校あり方の検討について

○田 中 市 長 平成28年度に策定した第2次公共施設再編計画の中に、学校統合を考える際の目安が書いてあり、現在もその流れで検討している。しかし、複式学級を作ってもしかたがないというような方向ではなく、その都度検討して最良の教育環境を作っていく。今後も何年後かの児童生徒数や検討課題など、目安や条件を明確に示しながら進めていくべきだと思う。現在のところは平成28年度の計画を踏襲しながらきている。今後は5年ごとに再度検討しつつ進めていかなければならない。

公共施設再編計画はあくまで行政としてのひとつの道筋であり、教育のあり方を優先して、公共施設再編計画が付随していくべきであると理解している。南砺市として、独自のものを作っていくならば、公共施設再編からの見方ではなく、教育のあり方という観点で考えていくべきだと思う。また、先んじて教育のあり方を議論し続けていくことが大事だと感じた。

部活動については、中学校体育連盟、高等学校体育連盟が学校単位の大会出場しか認めていないことが、非常に妨げとなっている。今後は、学校と地域スポーツクラブが連携しないと運営できなくなってくる。地域スポーツクラブと部活動のあり方についてしっかり考えていかなければならないと感じている。

GIGA スクール構想の中で、オンライン授業が今後どのように進んでいくのかを考えると、今までにない科目設定や教科を編成できるのではないかと。先生方と子どもたちとのコミュニケーションは大事だが、逆に学校に行きたくない子どもにもメリットがある可能性がある。南砺市らしいICT機器の使い方を見出していきたい。

○松 本 教 育 長 平成28年度の第2次南砺市公共施設再編計画は、30年後に8地域に小学校も中学校も維持する方向が示されている。今後も一貫して地域に根差した教育を展開していこうと考えている。

行革・施設管理課からの面積を半分にするという行政改革の課題については、必要などころから義務教育学校にすることで達成できると考えている。義務教育課を進めていくうえで生じる問題点として、教育改革の推進、地域や人材を活かす教育の推進、部活動などが考えられる。

教育改革は、学校が独自の取組を行ったり、地域やPTAと相談して工夫した取組を行ったりすることで推進される。

地域や人材を活かす教育は、来年度から始まる小中一貫教育によって推進される。南砺市の場合は1つの校区に小学校、中学校が各1校のため、地域を基盤とした教育を行うことができる。(福光地域は小学校3校中学校2校)

最も問題になっている部活動については、地域だけで解決することは難しく、体育協会やスポーツ少年団を含めて市全体で取り組んでいく必要がある。

30年後に必ず8地域(※8中学校区)すべてに学校を残す方向を示しつつ、公共施設再編計画と同様、5年ごとにその時点での状況や問題点を、PTAや地域の方の意見を聞きながら柔軟に修正していくことも必要と考えている。

まずは子どものことを考えた最良の環境で確実に教育が行き届くように、支援していきたいと思う。

○水上教育委員 南砺市の小・中学校の施設面、設備面は素晴らしいと思う。他のところと比べても整っていると感じている。

子どもたちの人数が急激に減っていく状況の中で、質を保った良い教育を施していくことに気を配りたい。複式学級にならないようにしてほしい。義務教育学校にすることで、複式学級が解消できるわけではない。少人数の教育は良いかもしれないが、本当に子どもにとって良い教育なのかということを考える。

○竹部教育委員 5年ごとに、今後の南砺市の小・中学校のあり方を検討する際には、これまで自分たちが受けてきた教育や教育環境が変わっていくということを前提として話を進めなければならない。現状の変化や世界的な学校教育の流れも踏まえ、少人数はむしろ効果的であると、私たち自身の意識を変えていく必要があると思う。南砺市の現状と教育に対する考え方の変化を反映した具体的な話を進めていくのが、南砺市立学校あり方検討委員会の役割ではないかと考える。

5年ごとの検討を考えた場合、相当変化していくことがたくさんある。そこからより効果的な教育活動を展開していくにはどうしたらよ

いか、を考えていく中でこそ、学校のあり方の検討が進められるべきだと思う。また、その理由をより多くの人に知ってもらう方法についても、今後考えていく必要がある。

○林 教 育 委 員 将来的には地元に戻ってきたいという子どもたちが多い。南砺を愛する人、南砺の未来を考えてくれる人をつくるためには、現状の地域に根差した教育を残すべきであると感じた。地域と絡めて、地域で支えて、地域で子どもたちを磨いていくような環境が子どもたちには必要だと思う。

南砺市は、旧4町4村にそれぞれ歴史があり、特色や伝統はこれからも残っていくと思う。「未来を切り拓く南砺の人づくり」につなげていけるような教育環境というのは、南砺市独自の文化として、それぞれの地域の特色を活かした立派な教育施設を活用していくことだと思う。

○高 坂 教 育 委 員 最近は移住者の方が増えてきている。保護者や子どもたちにより良い環境を考えて移住されたのだと思う。これから GIGA スクール構想で ICT 化が進めば、他校とオンライン授業や、工夫次第では他校の児童生徒と色々な交流ができるのではないかな。

南砺市立小・中学校のあり方検討(教育委員会の案)

将来に向けた学校教育の役割 「地域の人々との交流をおとして人間性を育む」

学校設置の基本的な考え方

- 市内の8地域(旧町村)の文化を大切にすることで、学校教育を機能させる
- 8地域に学校を残して、地域と一体となった学校運営を行う
- 多くの児童生徒が徒歩と自転車通勤が可能な学校配置とする
(子どもと家庭の通学にかかる負担を最小限にとどめる)

南砺市は

○安心して暮らせる地域 ⇒ ◎移住・定住・Uターンの促進
(人口ビジョンの目標達成に向けて)

参考:南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会における協議

小学校 9校 → 2045年度には 4校
中学校 8校 → 2045年度には 2校

小・中学校再編と公共施設再編計画

年次	2020年度(R2)	2021年度(R3)	2025年度(R7)頃までに	2030年度(R★)頃から随時	2045年度(R27)
A) 学校数	【17校】 小学校9校 中学校8校	【16校】 小学校8校 …(△1校:井口小) 中学校7校 …(△1校:井口中) 義務教育学校1校 …(+1校:井口)	【14校】 小学校6校 …(△3校:井口小、利賀小、福光南部小) 中学校6校 …(△2校:井口中、利賀中) 義務教育学校2校 …(+2校:井口、利賀)	【14校】⇒【●●校】 ◆保護者や地域住民が望めば、小学校4校、中学校2校への再編統合も検討する	【8校】 義務教育学校8校 …<井波、井口、利賀、城端、平・上平、福野、福光、吉江> ◆2060年度には ・児童生徒数によっては、小規模校を統合再編する【7校~6校に】
B) 学校再編	第2次南砺市公共施設再編計画(平成28年3月)における基本的な考え方 ・学校は、地域の核的な施設であり、8地域それぞれで維持。 ・しかしながら、適正規模を下回れば統合の必要があると考えられる。	①井口地域義務教育学校の開校 第2次南砺市公共施設再編計画(平成28年3月)における基本的な考え方 ・井口小、井口中…短期に小中一貫校の検討 ・利賀小、利賀中…短期に小中一貫校の検討 福光南部小…複式学級が2学級以上となった場合、統合を検討	②利賀地域義務教育学校の開校 ③福光南部小学校の統合 (※複式学級になった時点で、福光中部小と福光東部小に統合する) ⇒すべての小学校、中学校で、小学校1校対中学校1校の「小中一貫教育」体制が整う	④小中学校区単位で、小学校・中学校の全学年が単級(1学年1クラス)になった学校から、義務教育学校へ移行する (※福光地域の福光中部小・福光中部光東部小・吉江中については、義務教育学校ではなく、小学校2校を1校に、中学校2校を1校に統合することも選択肢とする)	⑤全ての中学校区で義務教育学校とする
C) 公共施設再編	①井口小学校、井口中学校における減築		②利賀小・利賀中の義務教育学校への移行にあわせて、未使用部分の解体 ③福光南部小の学校校舎を解体もしくは用途変更	④義務教育学校は、各校区の小学校もしくは中学校の校舎を利用して設置することから、小学校1校+中学校1校=2校が、義務教育学校1校になる。未使用の学校校舎を解体もしくは用途変更	◆2060年度には 小規模校を統合再編した場合は、未使用の学校校舎を解体もしくは用途変更
D) 目標人口等	◆2020年 南砺市人口ビジョン目標人口 48,208人 社人研推計人口 48,028人 (差:-180人)	◆2025年 南砺市人口ビジョン目標人口 45,422人 社人研推計人口 44,627人 (差:-795人)	◆2035年 南砺市人口ビジョン目標人口 40,122人 社人研推計人口 37,833人 (差:-2,289人)	◆2045年 南砺市人口ビジョン目標人口 35,178人 社人研推計人口 31,017人 (差:-4,161人)	◆2045年 南砺市人口ビジョン目標人口 35,178人 社人研推計人口 31,017人 (差:-4,161人)

小中一貫教育(9年間)の推進・中学校の部活動改革

将来の学校のあり方の意見交換における進め方について

1. ねらい

南砺市内の各地域における文化や地域活動、児童生徒数など状況はそれぞれであることから、グループ内で各委員との意見交換を行い、将来の学校のあり方について、委員各自の考えをまとめていただく。

2. 進め方

①グループ内で意見交換を30分程度行う。進行は席次表の名前の前に○印が付いている委員が進める。



②グループとしての意見はまとめず、各委員との意見交換を行っていく上で、委員自身の考えをまとめる。なお、グループ内で教育委員会の方針（案）について質問等がある場合は、教育長及び教育部長が応答する。



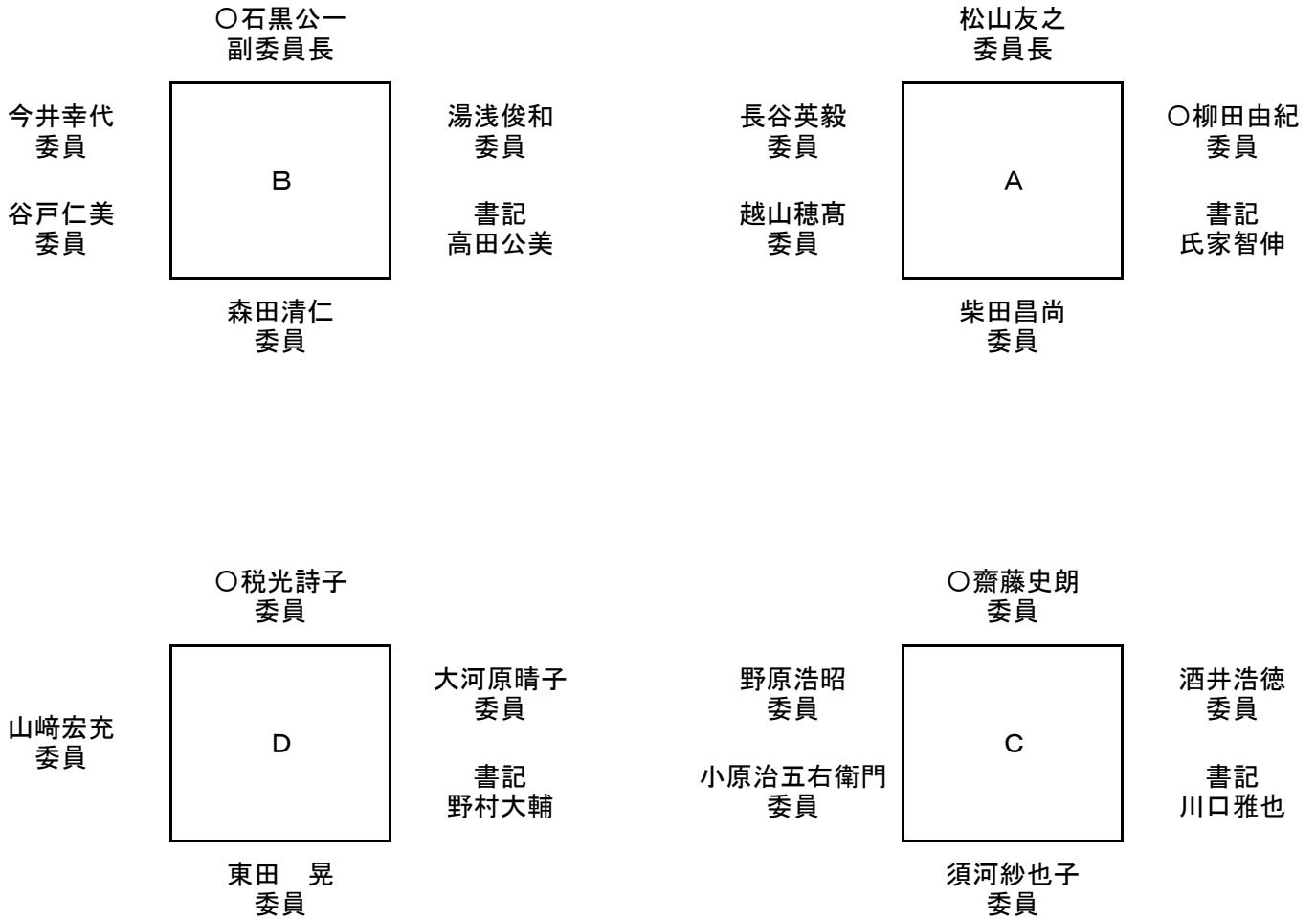
③意見交換後、Aグループの進行役から時計回りに1人ずつ2分程度、教育委員会の方針（案）についての委員自身の考えを発表してもらう。Aグループが終了したらBグループに移る。

3. 意見交換後

事務局にて各委員の考えを第3回の検討委員会までまとめ、第3回の検討委員会にて将来の学校のあり方について協議していただく。なお、今回の各委員の考え方などについて、各地域に戻った際に会合等で共有していただきたい。

第2回南砺市立学校のあり方検討委員会 席次表

スクリーン



事務局

松本謙一
教育長

村上紀道
教育部長

入口